

# 高校生の音楽 2

27 教芸

音Ⅱ 309

平成30年度  
高等学校用教科書 音楽Ⅱ  
(平成30教 内容解説資料)



# 『高校生の音楽1』での 学習をベースに より深い 学びにつながる 高校生の音楽2

## 目次 Contents

目次は分野ごとに  
スッキリ見やすく  
まとめました

### 歌唱

📌: ①の数は、中学校の共通教材など、古くから歌われている曲。 \* 同声の曲は、混声、女声、男声、いずれの形でも演奏できる。

**思いを込めて歌おう**  
歌調に込められた思いを感じ取って歌おう

糸 中島みゆき作詞・作曲……………8  
リズムのつって生き生きと歌い上げよう  
何度でも 吉田美和作詞/中村正人、吉田美和作曲……………10  
曲の雰囲気から合った歌い方を工夫しよう  
Imagine J.レノン作詞・作曲……………12  
歌調に込められた思いを生かして歌い方を工夫しよう  
見上げてごらん夜の星を  
永六輔作詞/いずみたく作曲……………13

**日本の歌曲を歌おう**  
楽譜に示された作曲者の意図を読み取って表現しよう  
からたちの花 北原白秋作詞/山田耕稼作曲……………14

**イタリア語の歌曲を歌おう**  
言葉の美しい響きを感じながら拍の流れにのって歌おう  
うつろの心 作詞者不明/G.バジエッロ作曲……………16

**ドイツ語の歌曲を歌おう**  
曲の構成を生かして曲想に合った表現を工夫しよう  
子守歌 A.V.アルム、C.フルンター、G.シェラー作詞/J.アラムス作曲……………18

**フランス語の歌曲を歌おう**  
シャンソンの雰囲気を感じ取って歌おう  
愛の讃歌 E.ピアフ作詞/M.モノ作曲……………20

**義太夫節を詠おう**  
声の音色や節回しなどの特徴を感じ取り、心を込めて詠おう  
「一谷嫩筆記」(相對の段)から 並木宗輔作……………53

**音楽の歌び**  
[独唱]

早春賦 ① 吉丸一昌作詞/中田 章作曲……………64  
浜千鶴 ① 鹿島晴秋作詞/弘田龍太郎作曲……………66  
カタリカタリ ① R.コルデフェロ作詞/S.カルディロ作曲……………68  
優雅な月よ ① 作詞者不明/V.ベッリニ作曲……………70  
愛の喜び ① 作詞者不明/J.P.A. マルティニ作曲……………72  
女性の歌 F.M.ピアージェ作詞/G.ヴェルディ作曲……………76  
セシナード L.レルシュタープ作詞/F.シューベルト作曲……………78  
君を愛す H.C.アンデルセン作詞/E.グリーグ作曲……………82  
夢のあとに R.ビュシー作詞/G.フォーレ作曲……………84

[合唱]

夏は来ぬ ① ② ③ 佐佐木櫻樹作詞/小山作之助作曲……………88  
流浪の民 ① ② ③ 石倉小三郎日本語詞/R.シューマン作曲……………90  
いざ起て戦人よ ① ② ③ 藤井一太郎日本語詞/マクランハム作曲……………93  
アヴェ ヴェルム コルプス ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ 作詞者不明/E.エルガー作曲……………94  
Shall We Dance? ① ② O.ハマースタイン2世作詞/R.ロジャース作曲……………96  
雨にぬれても ① ② H.デヴィッド作詞/B.バカラック作曲……………97

① 8分の6拍子にのって歌おう……………17  
② 曲想を感じ取って歌おう……………19  
③ フランス語らしい発音で歌おう……………21  
④ 義太夫節を詠るときには……………53

### 器楽

**ギターを弾こう**  
ギターアンサンブルに挑戦しよう  
Stand By Me  
B.E.キング、J.リバー、M.ストラー作詞・作曲……………22

**合奏を奏しよう**  
リズムの特徴を感じながら楽器の音色を工夫して合奏を楽しもう  
One M.ハムリッシュ作曲……………24

**編曲を吹こう**  
曲想を生かして、イメージをもって表現しよう  
秋の宵 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ 編曲部+器+太鼓 西川浩平作曲……………26

**音楽の歌び**  
[器楽]

America L.バーンスタイン作曲……………98  
Clapping Quartet No.2 長谷部運成作曲……………100  
ノルウェーの森 J.レノン、P.マカートニー作曲……………102  
ロンド W.A.モーツァルト作曲……………104

### 鑑賞

**西洋音楽の鑑賞**  
時代のイメージを呼び起こす旋律を聴こう  
時代を超えて鳴り響く(怒りの日)……………32

● 怒りの日 プレゴリオ作曲……………32  
● 幻想交響曲 から 第5楽章 美女の夜宴の夢 H.ベルリオーズ作曲……………34  
● 死の舞踏 F.リスト作曲……………34  
● 文藝祭 死の舞踏 C.サン＝サーンス作曲……………34  
● 交響曲第2番(復活) から 第5楽章 G.マーラー作曲……………34  
● バガニーニの主題による狂詩曲 から 第24変奏 S.ラフマニノフ作曲……………34

オーケストラと独奏楽器との掛け合いや対比を楽しもう  
パッハの協奏曲を聴こう……………36

● ブランドブルク協奏曲第2番 から 第1楽章 J.S.パッハ作曲……………36

交互に繰り返される音響の特徴を理解しよう  
2台ピアノが織りなす響きを聴こう……………38

● 2台のピアノのためのソナタ 二長調 から 第1楽章 W.A.モーツァルト作曲……………38

独奏ヴァイオリンのさらびやかな技巧とオーケストラの豊かな響きをお楽しみ  
ヴァイオリン協奏曲の名曲を聴こう……………40

● ヴァイオリン協奏曲 赤短調 から 第1楽章 F.メンデルゾーン作曲……………40

登場人物たちが音楽でどのように描写されているか理解しよう  
4つのアリアの特徴を聴き比べてみよう……………42

● オペラ カルメン から G.ビゼー作曲……………42  
アリア(恋は野の鳥)(カルメン)  
(皆さんの歌には私もお返しをしよう)(エスカミレリア)  
(おまえの投げたこの花は)(ホセ)  
(何も怖くないとは言っただけだ)(ミカエラ)

フルートとハープによる旋律や音色の美しさを感じ取ろう  
フォーレの響きの魅力を探ろう……………44

● シシリアエンス 管弦楽組曲(ペレアスとメリザンド)から G.フォーレ作曲……………44

斬新なリズムと響きによる表現を感じ取ろう  
音楽史上の大事件となった「春の祭典」……………46

● バルビ音楽 春の祭典 から 春の表レジーニエ女たちの踊り L.ストラヴィンスキー作曲……………46

**日本の伝統音楽**  
義太夫節の特徴を感じ取り、日本の伝統文化に親しもう  
文案「一谷嫩筆記」(相對の段)……………50  
[平家物語]を題材にした能を味わおう  
能「敦盛」……………54

**世界の諸民族の音楽**  
さまざまな音楽表現とその演奏の違いを感じ取ろう  
世界各地の文化が育んださまざまな音楽表現……………58

● クラブ ソラ(セネガル)……………58  
● ウラノ ヴィオ(ハワイ群島)……………58  
● チューニョの花が咲く頃に(アンデス地方)……………58  
● カレワラの調べ(フィンランド)……………58

同じ物語を題材とした芸術の特徴を理解しよう  
「ラマー物語」を題材とした芸術……………60

● カタカリ(インド)……………60  
● ワヤン クリ(インドネシア)……………60  
● コーン(タイ)……………60

**ポピュラー音楽**  
ポピュラー音楽の魅力を感じ取ろう  
ポピュラー音楽

[ジャズ]

● In the Mood(グリーン・ミラー)……………62  
[ロック]

● Livin' on a Prayer(ボン・ジョヴィ)……………63

**音楽史概観**

協奏曲の歴史①……………37  
古典派の作曲家が活躍した時代……………39  
協奏曲の歴史②……………41  
19世紀後半のフランス音楽の自覚……………45  
20世紀初頭の音楽……………49  
19世紀ロマン派のイタリアオペラ……………77  
ドイツ語の歌曲の歴史……………81  
フランスの歌曲 ～メロディの誕生と発展～……………87  
ミュージカル……………99

### 特集

新しい美の可能性を求めて……………2  
歌舞伎とシェクスピアの出合い……………4  
[平家物語]の音楽……………55  
音の歳時記 ～俳句に詠まれた郷土の芸術～……………56  
日本の作曲家による映画音楽……………118

### 資料

リコーダーの選指表……………105  
音楽の著作権について知ろう……………106  
オーケストラの編成……………107  
楽典……………108  
コードネームとダイアグラム……………112  
音楽史年表……………114

### 創作

音楽材や音響の特徴を生かして音楽をつくらう  
BGMをつくらう……………28

# 中村佑介さんが表紙のイラストに表現したこと

中村さんは、教科書の中身が出来上がったころ、

口絵から資料までの全てのページに目を通し、イラストのラフ描きを始めます。

この教科書では鑑賞が柱になっていることを読み取って、西洋音楽の鑑賞ページにある、ミケランジェロの『最後の審判』をモチーフの中心に選びました。

高校生がワクワクした気持ちで音楽の授業が受けられるよう、さまざまな要素を描き込んでいきます。

天国のおちゃめな天使たち、地獄のひょうきんなドラゴンや魔女。

そして、天と地の境には『春の祭典』の衣装を着た女の子たちや日本の伝統芸能の演者、ロックのジミ・ヘンドリックスやバッハの姿もあります。

多様で豊かな音楽をたくさん聴き、感じ取ってほしいという願いを込めて描かれています。



# 全体の構成

●教材を選択しやすくするために、活動の分野ごとに配列しました。

## 歌唱 (→本書P.6・7)

- ・学習目標の明示
- ・フランス語の発音を丁寧に解説
- ・学習をサポートする実践的なコラム

## 器楽 (→本書P.7)

- ・学習目標の明示
- ・生徒に負担のかからない難易度と選曲
- ・多様な活動を展開できる編曲

## 創作 (→本書P.12)

- ・小・中学校で既習の音素材による創作
- ・高校生が到達点をイメージできるテーマを設定

## 鑑賞 (→本書P.8~11)

- ・楽曲を理解するための手がかりを明示
- ・聴いて曲の魅力を実感できる活動

## 音楽の遊び

- ・高校の定番曲を満載した楽譜ページ
- ・基礎ページで身に付けたことを発展的に捉えられる

## 資料 (→本書P.12)

- ・楽典、オーケストラの編成などの充実した資料
- ・実際の音楽の授業やクラブ活動で使い勝手抜群

表紙			
口絵			
基礎ページ	歌唱 教科書 P.8~21	思いを込めて歌おう 「糸」(中島みゆき)他	収録曲数 4曲
		日本の歌曲を歌おう 「からたちの花」	1曲
		イタリア語の歌曲を歌おう 「うつろの心」	1曲
		ドイツ語の歌曲を歌おう 「子守歌」	1曲
		フランス語の歌曲を歌おう 「愛の讃歌」	1曲
基礎ページ	器楽 教科書 P.22~27	ギターを弾こう 『Stand By Me』	1曲
		合奏を楽しもう 『One』	1曲
		篠笛を吹こう 『秋の宵』	1曲
鑑賞ページ	創作 教科書 P.28~31	BGMをつくろう	
		西洋音楽の鑑賞	12曲
		時代の超えて鳴り響く《怒りの日》 ([『幻想交響曲』他), 『ブランデンブルク協奏曲第2番』, 『2台のピアノのためのソナタ 二長調』, 『ヴァイオリン協奏曲 ホ短調』, オペラ『カルメン』)他	
		日本の伝統音楽 文楽「一谷嫩軍記」他	2曲
		●義太夫節を語ろう 「一谷嫩軍記」から(鑑賞から歌唱へ)	
発展ページ	鑑賞 教科書 P.32~63	世界の諸民族の音楽 「クンプ ソラ」他	7曲
		ポピュラー音楽 『In the Mood』他	2曲
		独唱 『早春賦』『優雅な月よ』他	9曲
発展ページ	音楽の遊び 教科書 P.64~105	合唱 『夏は来ぬ』『流浪の民』他	同二[女二/男二](2) 同三[女三/男三](1) 混四(2), 男四(1)
		器楽 『America』『ノルウェーの森』他	4曲
資料	資料 教科書 P.105~117	楽典, オーケストラの編成, コードネームとダイヤグラム, リコーダーの運指表, 音楽史年表, 音楽の著作権について知ろう	
		P.118~裏表紙裏(P.119)	

※表中の同二, 同三は混声合唱でも演奏できます。



# 歌唱

豊かな表現を目指して、  
日本、イタリア、ドイツ、フランスの歌曲を取り上げ、  
歌い方を詳しく説明しました。

(教科書P.14)

## 日本の歌曲では作曲者の意図を探る

### 心からたちの花

北原白秋作詞／山田耕

日本の歌曲を歌おう

からたちの花が咲いたよ  
 白い花が咲いたよ  
 からたちの花は咲いたよ  
 青い青い針のとげだよ  
 からたちのとげはいたいよ  
 白い花が咲いたよ  
 からたちは畑の垣根よ  
 いつもいつもおる道だよ  
 からたちも秋はみのるよ  
 まらいまらい金のたまだよ  
 からたちのそばで泣いたよ  
 みんなみんなやさしかったよ  
 からたちの花が咲いたよ  
 白い花が咲いたよ



からたちはミカン科の落葉低木。枝には鋭いとげがあり、春になると白い5弁の花を咲かせる。秋には黄色く丸い果実が熟すが、食用ではない。

山田耕自身が残した『からたちの花』の演唱法に基づいて、歌い方の解説を楽譜の中に示し、作曲者の意図を読み取って表現することができるようになりました。

Andante tranquillamente ♩ 72~92  
 (ゆるく・しずかに、やや自由に)

\* の部分は山田耕自身の演唱法の説明から抜粋。

ca - ra - ta - chi no ha - na ga sa - ki - ta yo      shi - ro i shi - ro i ha  
 やや抑えて    深くと、軽く流すように      落ちる      弱く、ためらいがちに      強弱的に *p* で

na ga sa - ki - ta yo      ca - ra - ta - chi no to ge ha i - tai yo      a      a  
 強弱を生かして      いっそう落ちるきをもって      強弱に留意して      抑えて、わずかに肩をあげて

oi oi oi ha      ri no to ge da yo      ca - ra - ta - chi ha ha no ka ki ne  
 滑らかに      軽くプレスする      明るく      柔らかく発音      重く      やや急ぎみに      落ちる      寂しく

## 豊かな歌唱表現を目指して

言葉と旋律との関係を学び、自然で豊かな歌唱表現につなげていくことができるよう、さまざまな手法で解説するコラムを設けています。

イタリア語などの西洋の歌曲にアウフタクトで始まる曲が多いのは、言葉のもつアクセントが日本語とは違うからでしょう。自然な流れで豊かな表現ができるよう、しっかりと導いています。

## 定番のイタリア歌曲をしっかりと表現するために

### うつろの心

作詞者不明／徳中良輔日本語／ジョヴァンニ・バイゼット作曲

Nel cor più non mi sento  
 nel cor più non mi sento  
 nel cor più non mi sento  
 nel cor più non mi sento

ca - gion del mio tormento  
 ca - gion del mio tormento  
 ca - gion del mio tormento  
 ca - gion del mio tormento

### 歌唱のポイント①

#### 8分の6拍子によって歌おう

① 「うつろの心」の旋律には、下の譜例で示したような ♩ のリズムが多く用いられています。このリズムのまとまりを意識しながら、♪の音に重心を置くように歌いましょう。

※○は強拍の位置

●♪のところでは、母音を長くのばして歌います。

母音の歌い方の例  
 Nel cor più non mi sento  
 ※母音をのばした後に「ル」や「ン」などの子音を軽く発音する。

●♪のリズムと言葉のアクセントに注意しながら、<img alt="blue arrow pointing right" style="vertical-align: middle;"/> や大きな流れを感じて歌いましょう。

カジョー    デル    ミーオ    トルメン    ト  
 cagion    del    mio    tormento,    ca - gion    del mio    tor - men - to,

(教科書P.16・17)

曲の構成を生かして曲想に合った表現を工夫しよう

2年生でも学習指導要領の内容に沿って、「何を目標に、どのような活動をするのか」を具体的に示しています。

### 子守歌

A.v. アルニム, C. プレンターノ, G. シェー  
ヨハネス・ブラームス作曲

Wiegenlied

Zart bewegt

1 Die-ten Ä - bend, gut Nacht, die mit Ro - sen be - dacht, mit Nig - lein be -  
2 Gä-ten Ä - bend, gut Nacht, von Eng - lein be - wacht, mit zwi - gen im -  
ねんねん ころり は は の ひざ は ゆ - め を さそ

3 Nachtの歌い方  
2拍目の4分音符にかかるように、子音の“cht”を発音することによって、フレーズとフレーズがスムーズにつながります。休符もフレーズの一部と感じながら歌ってみましょう。

4 “bedacht”の歌い方  
“bedacht”の部分は、「ダー」とのばした母音を2拍目でもう一度「アー」と感じて、その後子音の“cht”を素早く発音します。そして、フレーズで拍の流れが止まらないよう注意して、次のフレーズにスムーズにつながりましょう。

ドイツ語らしい歌い方になるよう、語末の子音の発音のタイミングについて解説しています。

(教科書P.18・19)

#### 歌唱のポイント②

曲想を感じ取って歌おう

- 1 曲の構成を確認しましょう。この曲の前半と後半にそれぞれどのような特徴があるのかを調べ、歌い方を工夫しましょう。
- 2 子守歌の雰囲気をつくるため、柔らかい響きを工夫しましょう。
- 3 語末の子音の発音は、ドイツ語の特徴の一つです。より音楽的な表現ができるよう、語末の子音の歌い方を工夫しましょう。



Nacht, mit...

### 初めてのフランス語

フランス語らしい発音で歌うために、ポイントとなる発音を図形に置き換え、楽譜中に示しました。

シャンソンの雰囲気を感じ取って歌おう

### 愛の讃歌

Hymne à l'amour

エディット・ピアフ作詞/若原三穂  
マルグリット・モノ作

Tempo rubato

ル シェル ブル シュル ヌブ セ フンドロレ エ ラ テー ム プレン  
Le ciel bleu surplu peut s'el-fon-drer Et la ter-re peut bien  
タン クラム イ・ノン・デア・メス・マ・アム・タン クエモン コプス フレ・ミ・ラ  
あ た の も え る て で あ た し を た き  
た だ い の ち の か ぎ り あ た し は あ い

II. G Am

ler Peun'im-poi-te si tu m'ai-mes Je me fous du monde  
main Peun'im-poi-te les pro-ble-mes Mon a-mour  
て た だ ち た り だ け で い き て い た  
い の ち の か ぎ り に あ な

#### 歌唱のポイント③

フランス語らしい発音で歌おう

「愛の讃歌」をフランス語らしい発音で歌ってみましょう。

まず、音符の一つ一つに、言葉の1音節を当てるのが基本です。1音節に含まれる母音は1つなので、始めに出てくる“ciel”などの場合は、「シ-エル」と3音節に聞こえないように、1つの母音[シ]の後に子音を付けて「[エ]」と一続きに発音しましょう。



フランス語では、単語の最後が子音の場合、多くはその文字の音を発音しません。1小節目の“nous”の“s”や“peut”の“t”など、印のある文字がこれに該当します。

1小節目の“s'effondrer”の“on”などは、鼻母音と呼ばれるフランス語独自の響きです。「オン」という母音の「オ」を鼻に当て、鼻から「ン」の響きを出すつもりで、「オン」のように発音します。

2段目の終わりの“monde entier”のように、先の単語の[モンド]と次の単語の[アン・ティエ]がくっついて[モン・タン・ティエ]とつながり、2音節から3音節になる場合があります。このように、単語と単語が結びついて発音が変わるのもフランス語の特徴の一つです。

2段目の終わりの“monde entier”の“en”の母音は、「オ」に近い「ア」です。口を縦長に開き、実際には「ドン」と聞こえるぐらいに発音しましょう。第2節の最初の“tant”も同様で「トン」と聞こえるぐらいに発音します。どちらも鼻母音なので、息を鼻に当てるとも意識してみましょう。

## 器楽

無理なく楽しみながら取り組める楽曲を厳選しました。また、ギターと篠笛の奏法を分かりやすく説明しています。

### ギターは好評のアレンジで

ギターアンサンブルに挑戦しよう

### Stand By Me

ベン・E.キング、ジェロニーマー・マイク・ストラー作詞・作曲/若原三穂編曲

(When the night has come, And the land is dark, And the

「Stand By Me」の伴奏は、シンプルなコード進行でできています。このコードを覚えて伴奏を弾いてみましょう。弾けるようになったら、ベースラインアンサンブルに挑戦してみましょう。

メロディー、コード、バスの3つのパートに分かれて演奏することで、ギターの経験がなくても簡単に習得することができ、達成感が得られます。コードの指の位置も写真で分かりやすく示しています。

左手のポジション

G Em C D7

(教科書P.22・23)

### 和楽器は篠笛で

曲想を生かして、イメージをもって表現しよう

### 秋の宵

自由な速度で

自由な速度で

自由な速度で

篠笛の学習では、奏法を丁寧に解説するだけでなく、「作曲者の言葉」も添えられていますので、曲のイメージをもって演奏することができます。

#### 指孔のふさぎ方



#### 口の当て方



#### 作曲者の言葉

一面に田んぼが広がる小さな村の、秋の夜をイメージした曲です。笛の旋律は、歌舞夜の中で、田舎のどんな風情などを表現するとき演奏する「田舎笛」をヒントに作られました。跡は、小ぶりの鈴を身につけて踊る素足の子供の姿をイメージして作りました。みなさんもそれぞれイメージをふくらませて、旋律の吹き方、打楽器の音色などを工夫してみてください。

(教科書P.26・27)

# 鑑賞 ①

西洋音楽は、特色ある名曲を集め、それぞれの着眼点を明確に示しました。曲の解説や、音楽史的背景を説明した「音楽史羅針盤」などから、多角的に理解を深め鑑賞します。

## 鑑賞のねらい

「何を感じ取るのか」を明確に示しています。

## 体感する鑑賞

不規則で荒々しいリズムや刺激的な不協和音について調べ、身近な楽器などで演奏してみよう

46

### 斬新なリズムと響きによる表現を感じ取ろう

## 音楽史上の大事件となった『春の祭典』

1913年にパリで行われたバレエ『春の祭典』の初演では、オーケストラがストラヴィンスキーの音楽の演奏を始めるやいなや、聴衆はその聴き慣れない音楽に対して大騒動を起こしました。

『春の祭典』の音楽は、それまでの音楽ではほとんどみられない新しい表現方法を用いていて、それはまた20世紀以降の音楽にみられるようになる特徴の一つでもありました。ここでは、『春の祭典』の第1部から『春の兆し—乙女たちの踊り』の部分の聴き、この曲の斬新さや魅力を味わいましょう。



バレエ『春の祭典』の初演の復活上演(マリインスキー1913年5月29日に初演された『春の祭典』は、この最初のシーズンを飾る公演だった。ちょうど100年で初演時の振り付けや舞台美術、衣装などを再現した)

初演の行われたシャンゼリゼ劇場での復活公演の写真を掲載!

バレエ音楽 春の祭典 から 春の兆し—乙女たちの踊り

ストラヴィンスキー

### リズムと和音を調べてみよう

初演を聴いた人々に鮮烈な印象を与えた『春の祭典』の音楽は、実際『春の兆し—乙女たちの踊り』の最初の部分を例に、リズムと和音の特

Tempo giusto ♩=50

### リズムの特徴を調べてみよう

- ・冒頭の8小節では、弦楽器群が不協和音の荒々しい響きで拍を刻み、原始的な雰囲気をつくり出しています。拍には、不規則にアクセントがつけられています。
- ・8本のホルンは、弦楽器群と同じ和音を、アクセントのタイミングに合わせて鋭く吹奏するように演奏します。

### リズムを打ってみよう

- ・4分の2拍子を意識しながら、①(ホルンのリズム)と②(弦楽器群)
- ・2つのグループに分かれて打ったり、①と②のリズムを1人で打

### 使われている和音とその組み合わせを調べてみよう

この部分は、下に示した2つの和音

### 音の重なり

半音のぶつかりが不協和な響きを生み出します。

### 演奏してみよう

いちばん上の譜例の4つの段を、キーボードやピアノなどで演奏し

西洋音楽の鑑賞

### 『春の祭典』の初演の批評を読んで、当時の人々の反応について考えてみよう

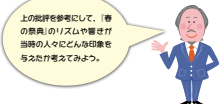
大騒動となった初演では、ストラヴィンスキーの音楽の刺激的な表現に対して騒音を訴える抗議の声と、反対にその表現に賛同する人々の声とが飛び交い、しまいはつかみ合いになって人が出るほどだったといわれています。音楽史上まれに見る大スキャンダルの様子は、当時のフランスの新聞批評などからうかがい知ることが出来ます。

「……リズムがすばらしい活気と驚くべき多様性を示しているとしても、旋律線はいかににも頼りない。和音にも特別な情緒はなく、楽想の発展や配置にも見るべきところが無い。要するに、この芸術作品の根本はひどく貧弱で、まったく原始的で単純である。だからこそ、その色あせた姿を際立たせたものに見せるために、乱暴で刺激的な外見的細工を施しているのだ」

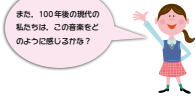
【ルフィガロ】1913年5月31日付

「……イーゴリ・ストラヴィンスキー氏の尋常ならざる音楽については、確信がもてないかもしれないが、肯定すべきであろう。理かたずかなる誇張への明らかなき偏見がみられ、ときには極めて醜態である。少なくとも我々1913年の人間には、そう感じられる。[中略]きんだ響きの執拗な連続の中には、注目すべき旋律的輪郭が浮かび上がり、魅力的なリズムの生命が躍る。色鮮やかな和音の花々が咲き持っているというのに、我々にはそれが理解できないのだ」

【ルヴランセーズドミュージック誌】1913年6月7月号



上の批評を参考に、『春の祭典』のリズムや響きで当時の人々にどんな印象を与えたかを考えてみよう。



また、100年後の時代の私たちは、この音楽をどのように感じますか?

### 自分の考えを記述するスペース

イーゴリ・ストラヴィンスキー Igor Stravinsky (1882—1971)は、ロシアの作曲家、バレエのディレクターから依頼された3つのバレエ音楽(『春の祭典』『ペトルシュカ』『春の祭典』)によって『リデ』でセンセーショナルなデビューを果たし、現代の音楽となった。特に『春の祭典』は、音楽に対する原始主義の代表である。彼の作風は時代によって異なり、さまざまなタイプの音楽を作曲している。1939年にアメリカで亡くなった。1999年に再評価され、NHK交響楽団が指揮した。その後、ロシアの『祭典』の作曲家としての地位を確立し、批評が国際的に評価されるきっかけとなった。



## 作曲者に関する情報

鑑賞に必要な作者の情報を簡潔に示しています。

## 楽曲に関する情報

作品への興味・関心がより深まる情報を示しています。

がやってくる。



### 『春の祭典』初演時のバレエの様子を見てみよう

初演が大スキャンダルとなったのは、音楽の斬新さだけでなく、バレエの原始的な振り付けにも原因がありました。それまでのバレエの優雅な舞踏といったイメージからかけ離れた、粗野でどこにもない動作による『春の祭典』の踊りが、当時の人々の目にもとに映ったのか、想像してみましょう。

足を内股にしたり、首や腕を不自然に曲げたりして、さらさらと踊る異様な振り付けのイメージが伝わってくる。



バレエ『春の祭典』第2部から



【コメディア】1913年5月31日付に掲載された『春の祭典』初演時のバレエダンサーの写真

西洋音楽の鑑賞

初演のスキャンダルは、音楽以外にも原因があったことを、当時の新聞に掲載された写真とともに伝えます。





# 鑑賞②

日本の伝統音楽では、文楽と能を取り上げ、自国の音楽文化についての理解を深めます。

## 文楽『一谷嫩軍記』

1年生の長唄に続き、2年生では文楽の義太夫節を鑑賞し、声や発声などによる表現の違いを感じ取ります。

## 鑑賞から表現への展開

太夫の語りと三味線の特徴をよく聴いて…



義太夫節の特徴を感じ取り、日本の伝統文化に親しもう  
文楽(人形浄瑠璃)『一谷嫩軍記』《組討の段》  
並木宗輔作

「義太夫節」は、17世紀末に大阪(現在の大阪)で竹本義太夫(1651~1714)が始めた浄瑠璃で、「文楽」の音楽として生まれました。上方文化によって育まれた義太夫節は、日本人の「情」を描いた長大な物語を、語り手である「太夫」と三味線の奏者である「三味線弾き」で演奏します。  
●p.52(太夫と三味線)  
\*浄瑠璃：三味線を伴う語り(物語を語ることを主体とした音楽)の総称。

**作品について**  
『一谷嫩軍記』は享和元(1751)年に初演された作品で、全五段からなる「時代物」です。時代物とは、江戸時代以前につくられた文学作品や江戸時代のお家騒動を題材にして、武家社会を中心に描いた演目です。  
『一谷嫩軍記』の二段目(組討の段)は、『平家物語』の「敦盛落首」を題材にした作品です。16歳の若さで一谷の戦いに出席した平家の武将平敦盛と、源氏の将領源朝光の対決を中心に展開され、『一谷嫩軍記』最大の山場、三段目(備前落首の段) (p.52)で明かされる、悲劇の発端となる重要な段です。

**聴きどころ**  
右に示した箇所は、『組討の段』の冒頭部分です。義太夫による表現の工夫を知り、イメージをもって聴きましょう。  
●**能の「節」を取り入れた語りの表現**  
能は、節の様式を取り入れて語ります。これを「節ガカリ」といい、ここでは能「節」から取り入れた詞書を謡曲に、荘重な雰囲気です。●p.54(節謡)  
●**波の感じを三味線で表現**  
能は、三味線がテン・テンと1つ音を繰り返して演奏します。この音は、須磨の浜辺に打ち寄せる大波小波(伊波女波ともいふ)を表現しています。  
●**せりふを三味線の演奏にのせて語る**  
義太夫節では、せりふは原則として三味線を伴わずに語りますが、●の音楽のせりふは、三味線の演奏ののっぴりズカルに語ります。これを「節ノリ」といいます。

**詞章の現代語訳**  
やがて、安徳天皇の御座船をはじめ、平家一門はみな海上に出たので、乗り遅れまいと夜打ち間に身を寄せたが、御座船も他の船もはるか岸合へ落ちのびた。無官の太夫歌は、途中で船を見失った。御座船について、父経盛に自分の覚悟を告げようとして、浪の浜まで出たが、殊方の船は一艘もなく、仕方なく波間に身をまかせた。沖合の船を目指した。そこへ後ろから源次郎直実が、「おお、おお」と声をかけて、馬の足をやめて進んだ。「やあ、そこにおられるは平家の名ある御座船であろう。殿に再中を見て逃げられるは是非、引き返して御覧されよ。それがしは、武蔵國の住人源次郎直実、一対の勝負、引き返されよ」と、筆論を差し上げて引き返し、「しばらく待たれよ」と大きな声で呼びかけた。

**詞章**  
義太夫節は、浄瑠璃の一種で、三味線を伴った語りである。太夫が能の語り手としての役割を担っている。  
1 去る程に、御船を始めて、一門御座船に浮かび乗り遅れ、汀に打寄れば、御座船も兵船も、遠かにのび給ふ。無官の太夫の歌は、道にて波を見失ひ、御座船に馳着いて、父経盛に身の告を告げらる事ありと、無官の磯辺へ出てられしが、船一艘もあらざれば、沖波に身をまかせ、沖合の船を目指した。そこへ後ろから源次郎直実が、「おお、おお」と声をかけて、馬の足をやめて進んだ。「やあ、そこにおられるは平家の名ある御座船であろう。殿に再中を見て逃げられるは是非、引き返して御覧されよ。それがしは、武蔵國の住人源次郎直実、一対の勝負、引き返されよ」と、筆論を差し上げて引き返し、「しばらく待たれよ」と大きな声で呼びかけた。

## 目で見る鑑賞

迫力満点の人形たちの写真から、舞台の様子や雰囲気イメージします。

## 詞章を手がかりに聴きどころを確認。

形を造る人形芝居。貞享元(1684)年、竹本義太夫の創始(竹本座)を創設。近松門左衛門を語り大好評を博した。「文楽」という通称は、19世紀に人形浄瑠璃を興行した植村文楽村に由来する。

(教科書P.50・51)

# 鑑賞③

世界各地の諸民族に伝わる音楽やポピュラー音楽を聴き、多様な音楽文化について学びます。

## さまざまな音楽表現とその演奏の違いを感じ取ろう 世界各地の文化が育んださまざまな音楽表現

世界の各地には、さまざまな文化があり、それぞれ異なる生活の中で育ち、独自の文化が育まれている。音楽もその一つで、人々の生活や文化によって、さまざまな表現が生まれてきた。同じ音楽でも、その表現方法や演奏スタイルは、地域によって大きく異なる。それぞれの音楽文化を理解し、その表現の違いを感じ取ろう。

**アンブラ**  
アンブラは、インドの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。アンブラは、インドのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**グリンパ**  
グリンパは、インドの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。グリンパは、インドのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**ウラノヴィオ**  
ウラノヴィオは、ロシアの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。ウラノヴィオは、ロシアのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**ハワイ踊**  
ハワイ踊は、ハワイの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。ハワイ踊は、ハワイのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**ハワイ踊**  
ハワイ踊は、ハワイの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。ハワイ踊は、ハワイのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**ハワイ踊**  
ハワイ踊は、ハワイの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。ハワイ踊は、ハワイのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

## チューニョの花が咲く頃に

アンデス地方  
アンデス地方の伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。アンデス地方のさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**カレワラの調べ**  
フィンランド  
フィンランドの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。フィンランドのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**カレワラの調べ**  
フィンランド  
フィンランドの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。フィンランドのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**カレワラの調べ**  
フィンランド  
フィンランドの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。フィンランドのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**カレワラの調べ**  
フィンランド  
フィンランドの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。フィンランドのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**カレワラの調べ**  
フィンランド  
フィンランドの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。フィンランドのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**カレワラの調べ**  
フィンランド  
フィンランドの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。フィンランドのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

## 同じ物語を題材とした芸術の特徴を理解しよう 「ラーマ物語」を題材とした芸能

紀元前の古代インドで生まれたとされる「ラーマ物語」。その後もさまざまな文化の中で受け継がれてきた。同じ物語でも、その表現方法や演奏スタイルは、地域によって大きく異なる。それぞれの音楽文化を理解し、その表現の違いを感じ取ろう。

**カタカリ**  
インド  
インドの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。インドのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**カタカリ**  
インド  
インドの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。インドのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**カタカリ**  
インド  
インドの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。インドのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**カタカリ**  
インド  
インドの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。インドのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**カタカリ**  
インド  
インドの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。インドのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**カタカリ**  
インド  
インドの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。インドのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

**カタカリ**  
インド  
インドの伝統音楽で、歌と楽器を同時に演奏する。音階は西洋音楽とは異なり、音程も独特である。インドのさまざまな地域で演奏され、その表現方法も地域によって異なる。

(教科書P.58~61)



# 創作

小・中学校や『高校生の音楽1』で経験した創作を基礎に、  
高校生がイメージをもって取り組むことのできる題材を取り上げました。

(教科書P.28・29)

**音楽材や音階の特徴を生かして音楽をつくらう**  
**BGMをつくらう**  
\*BGM:バックグラウンドミュージック(背景に流れる音楽のこと)。

朗読、演劇、映像などに、場面の雰囲気にあったBGMをつけてみましょう。

**準備1 BGMを付ける対象を選ぶ**

朗読 演劇 映像

**準備2 BGMを付ける場面を選ぶ**

ココと...  
ココに...

BGMは多すぎるとかたまって効果が薄くなるので気をつけよう。

**準備3 付けるBGMのタイプを選ぶ**

ここではBGMを大きく2つのタイプに分けて考えてみましょう。

**サウンド系のBGM**

打楽器などの音楽材を中心に、短い「音のまとまり」(ここでは「サウンドピース」と呼ぶ)を反復しながら音楽をつくる方法。

**メロディー系のBGM**

オリジナルのメロディーをつくり、それを自分たちで演奏できる楽曲に仕上げよう。

**サウンド系とメロディー系の2つのタイプについて、それぞれ詳しい手順を掲載しました。**

**サウンド系のBGMをつくらう**

**Step 1 場面の雰囲気に合いそうな音楽材を選ぶ**

打楽器 身の回りの物 体

**Step 2 選んだ音楽材を用いて、「サウンドピース」をつくる**

音の長さやリズム 音の強さを調節する音 音の音階(音程)を調節する音

**Step 3 「サウンドピース」の組み合わせや演奏の仕方などを工夫してBGMをつくる**

A 演奏する際は、お話を聴かせるように...  
B 聴者の感情にこころと通じあわせよう...

**メロディー系のBGMをつくらう**

**Step 1 「メロディー」のBGMをつくる**

1. 音のまとまりを楽器に合わせる  
2. 大きな音で打つことも効果的  
3. より響きやすい音になるように工夫する

**Step 2 1つのパートを完成させる**

2つのパートを組み合わせよう

BGMをつくるという題材で、場面の雰囲気に合う音楽をイメージし、思いや意図をもってつくることができます。

(教科書P.30・31)

**メロディー系のBGMをつくらう**

**Step 1 「メロディー」のBGMをつくる**

1. 楽器の音階を調べる  
2. 楽器の音階を調べる  
3. 楽器の音階を調べる

**Step 2 1つのパートを完成させる**

2つのパートを組み合わせよう

**Step 3 2つのパートを組み合わせる**

2つのパートを組み合わせよう

# 資料

音楽の授業ではもちろん、クラブ活動などのさまざまな音楽シーンでも役立つ充実した資料を掲載しました。

**楽典**

大塚 隆之 監修

**楽典**

音符、記号、用語、音階、和音、コードネームなど各種の事項を6ページにまとめました。楽譜に関することを、生徒自身で調べることができます。

(教科書P.108~113)

**音楽史年表**

巻末の年表では、楽しいイラストとともに、古代から現代までの西洋音楽と日本音楽の流れを並行して概観することができます。

(教科書P.114~117)

**オーケストラの編成**

オーケストラは、木管楽器、金管楽器、打楽器、弦楽器からなる大合奏です。楽器によっては、グループや種別楽器が別れることもあります。また、使われる楽器やパートの人数なども異なります。

**オーケストラの編成**

オーケストラで一般的にみられる楽器の配置例やそれぞれの音域をまとめています。

(教科書P.107)

# 検討の観点別にみた特色

	観点	教科書の特色
範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>●取り扱う内容の範囲は、学習指導要領の目標及び内容によっているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多様なジャンルから精選された教材によって必要な内容が十分に扱われており、音楽科の目標を達成するという観点から極めて適切なものとなっている。</li> </ul>
程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教材は、生徒の心身の発達段階や能力の実態に適切しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●歌唱教材においては生徒の心情的な発達段階に応じた楽曲を、器楽教材においては技術的に平易な楽曲を取り上げている。また、鑑賞教材においては着眼点を明確に示すなど、生徒の能力の実態に即した適切な内容になっている。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教材の選択及び扱いは、学習指導を進めるうえで適切であるか。</li> <li>●基礎的・基本的な内容を学習するうえで適切であるか。</li> <li>●説明文やイラスト、写真などは、学習を進めるうえで適切であるか。</li> <li>●生徒が興味・関心をもち、主体的、創造的に学習活動に取り組めるよう工夫されているか。</li> <li>●「創作」に関わる学習活動が適切に取り扱われているか。</li> <li>●我が国の伝統音楽や音楽文化に対する配慮はなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●明確な学習の観点のもと、幅広く変化に富んだ学習活動を行うことのできる教材が用意されており、生徒が興味・関心をもって意欲的に学習を進めることができるよう配慮されている。</li> <li>●教材の内容と関連付けて、基礎的・基本的な内容を学習できるよう、さまざまな参考資料が収録されている。また、鑑賞においては楽曲の特徴が分かりやすく解説されており、確実に学習活動を進められるよう配慮されている。</li> <li>●説明文は平易な言葉で書かれており、その配置も工夫されている。</li> <li>●イラスト、写真の取り上げ方もアイデアにあふれ、音楽的感覚の育成や知的理解の深化に配慮されている。</li> <li>●生徒の興味・関心を引き出すための問いかけを「吹きだし」の形で示し、生徒が主体的に学習活動を進められるよう配慮されている。</li> <li>●創作の手順を具体的に示し、生徒が創造的に学習活動を進められるよう配慮されている。</li> <li>●創作活動においては、生徒の能力に応じて進められるよう配慮されている。</li> <li>●小学校、中学校における「音楽づくり」「創作」の学習内容や、学習指導要領に示された指導事項を踏まえながら、時間的、能力的に無理なく取り組める教材が、具体的な手順を踏んで取り上げられている。</li> <li>●歌唱教材においては、古くから歌い継がれている曲を「心の歌」と題して取り上げており、器楽教材においては楽器の奏法などについて分かりやすく解説している。また、鑑賞教材においては伝統芸能や郷土の芸能を取り上げており、音楽的側面からだけでなく文化的側面からも、生涯にわたって我が国の伝統音楽や音楽文化に親しめるよう配慮されている。</li> </ul>
全体の構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教材は系統的、発展的に組織されているか。</li> <li>●小学校、中学校における学習内容との系統性、一貫性について配慮されているか。</li> <li>●各学校や生徒の実態に応じた学習指導計画を立てるための配慮がなされているか。</li> <li>●教材の配列は単なる羅列ではなく、楽曲の性格に即して適切であるか。</li> <li>●教材の分量は適切であるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●目次及び本文中に示された学習目標に基づいて、系統的に教材が配置されており、確実に学習を進められるよう配慮されている。</li> <li>●小学校、中学校の義務教育における音楽科の目標の上に立った内容の教科書となっている。</li> <li>●歌い継いでいきたい日本の歌が、「心の歌」と題して小学校、中学校から一貫して取り上げられている。</li> <li>●大きく表現領域と鑑賞領域に分かれているため、学習の深化や相互の関連付けを容易に行うことができ、各学校や生徒の実態に応じた柔軟な学習指導計画を立てられるよう配慮されている。</li> <li>●分野ごとに平易な曲を中心として教材が配列されており、学習の理解や深化を図りやすいよう配慮されている。</li> <li>●精選された教材が過不足ない分量で扱われており、各学校や生徒の実態に応じて柔軟な対応ができるよう配慮されている。</li> </ul>
記述	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ユニバーサルデザインへの配慮がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体に区別しやすい配色を用いながら、必要に応じて形状や濃度を違えるなど、確実に識別できるよう配慮されている。</li> </ul>
人権	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人権教育、国際理解、情報、環境など、社会的及び道徳的教育課題の扱いについては、適切な配慮がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体を通して、人権教育に対する適切な配慮がなされている。また、歌唱教材や鑑賞教材においても、諸外国の音楽文化に対する理解を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>●音楽に関する知的財産権について、「音楽の著作権について知ろう」という視点で、分かりやすく解説されている。</li> </ul>
体裁	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体の体裁は教科書として適切であるか。</li> <li>●印刷・製本などは適切であるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●A4変型判で楽譜が見やすく、紙面のレイアウトも統一感があり、教科書として適切なものとなっている。</li> <li>●教科書の内容をイラストで表現した表紙からも高校生に対するメッセージが感じられるよう工夫されており、音楽に親しみやすい体裁となっている。</li> <li>●カラーページとモノクロページに分かれたすっきりした紙面であるとともに、楽譜、文字、イラスト、写真などの印刷の発色もよく、鮮明なものとなっている。</li> <li>●製本は長期の使用に十分耐える堅牢なものとなっている。</li> <li>●再生紙を使用し、リサイクル可能な表紙加工を施すなど、環境に十分な配慮がなされている。</li> </ul>

# 年間指導計画例

芸術科の目標 芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

**学 習 指 導 要 領 (抜 粋)**

**内 容**  
**A 表 現**  
 表現に関して、次の事項を指導する。  
 (1) 歌唱  
 ア 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて理解し、イメージをもって歌うこと。  
 イ 曲種に応じた発声の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫して歌うこと。  
 ウ 様々な表現形態による歌唱の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫して歌うこと。  
 エ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して歌うこと。  
 (2) 器楽  
 ア 曲想を楽曲の背景とかかわらせて理解し、イメージをもって演奏すること。  
 イ 楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫して演奏すること。  
 ウ 様々な表現形態による器楽の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、表現を工夫して演奏すること。  
 エ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して演奏すること。

(3) 創作  
 ア 音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けて、イメージをもって創造的に音楽をつくること。  
 イ 音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもって創造的に音楽をつくること。  
 ウ 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、イメージをもって創造的に変奏や編曲をすること。  
 エ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して音楽をつくること。

**B 鑑 賞**  
 鑑賞に関して、次の事項を指導する。  
 ア 声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解して鑑賞すること。  
 イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して鑑賞すること。  
 ウ 楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴について理解を深めて鑑賞すること。  
 エ 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解を深めて鑑賞すること。

月	領域(分野)/ 配当時間	題材名	題材のねらい	学習指導要領 内容の指導事項														
				A表現						B鑑賞			音楽を形づくっている要素	内容の取扱い				
				歌 唱		器 楽		創 作		A								
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ							
4 5 6 7	表現(歌唱)/ 4時間	歌詞に込められた思いや 作曲者の意図を理解し、 表現を工夫して歌おう	歌詞に込められた思いを感じ取り、楽譜から作曲者の意図を読み取って、表現を工夫して歌う	●	●	●	●									音色、リズム、速度、旋律、 テクスチャ、強弱	I(3)	
	表現(歌唱)/ 3時間	イタリア語のアリアを歌 ってみよう	イタリア語の発音に注意して、イタリアオペラのアリアを表情豊かに歌う	●	●	●	●									音色、リズム、速度、旋律、 強弱	I(3)	
	鑑賞、表現(歌 唱)/6時間	義太夫節の特徴を感じ 取り、日本の伝統文化 に親しもう	義太夫節の歴史や特徴、文楽『一谷嫩軍記』《組討の段》のあらすじを理解して鑑賞し、義太夫節《組討の段》を語る	●	●	●	●					●	●	●	●	音色、リズム、速度、旋律、 強弱	II(1), II(2) I(3), I(4) I(7)	
	表現(器楽)/ 3時間	リズムの特徴を感じなが ら楽器の音色を工夫し て合奏を楽しもう	各パートの役割に適した音色の楽器を選び、スウィングのリズムを感じてノリのよい合奏をする					●	●	●	●					音色、リズム、旋律、 テクスチャ、強弱、構成	I(3)	
	鑑賞/4時間	特定のイメージを呼び 起こす旋律を聴こう	多くの作品において死や不安を暗示する部分に用いられてきたグレゴリオ聖歌の《怒りの日》の旋律を感じ取る									●	●	●		音色、リズム、速度、旋律	I(6)	
	創作/6時間	音素材や音階の特徴を 生かして音楽をつくらう	音素材や音階の特徴を生かして、朗読、演劇、映像などの場面の雰囲気合ったBGMをつくる							●	●	●	●					音色、リズム、速度、旋律、 テクスチャ、強弱、形式、 構成
9 10 11 12	鑑賞/6時間	斬新なリズムと響きによ る表現を感じ取ろう	『春の祭典』のリズムと和音の特徴を理解して鑑賞し、初演当時にこの音楽やパレエの振り付けについて書かれた批評記事を参考にして、自分の意見をまとめる									●	●	●		音色、リズム、速度、旋律、 テクスチャ、強弱、構成	I(6)	
	表現(歌唱、器 楽)/4時間	シューマンの合唱曲を 歌おう	歌詞の内容を理解し、曲調の変化を感じ取りながら、曲にふさわしい声で歌う	●	●	●	●	●	●	●	●					音色、リズム、旋律、 テクスチャ、強弱、構成	I(3)	
	表現(器楽)/ 6時間	和楽器で合奏しよう	篠笛、鈴、太鼓を組み合わせ、曲想を生かして和楽器の合奏をする					●	●	●	●					音色、リズム、速度、旋律、 テクスチャ、強弱、構成	I(3) I(4) I(7)	
	鑑賞/3時間	『平家物語』を題材にし た能と平家を味わおう	文楽『一谷嫩軍記』《組討の段》と同じ『平家物語』の「敦盛最期」を題材にした能や、平家の鑑賞を通してその特徴を理解する									●	●	●	●	音色、リズム、速度、旋律、 テクスチャ、強弱、構成	II(2) I(4) I(7)	
	表現(器楽、歌 唱)/6時間	ギターアンサンブルに挑 戦しよう	メロディー、伴奏、ベースラインのパートに分かれて、『Stand By Me』をギターでアンサンブルし、歌と合わせる	●	●	●	●	●	●	●	●					音色、リズム、速度、旋律、 テクスチャ、強弱、構成	I(3)	
	鑑賞/4時間	「ラマ物語」を題材とし た各地の芸能を理解 しよう	インド、インドネシア、タイに伝わる「ラマ物語」を題材とした芸能の鑑賞を通してそれぞれの特徴を理解する									●	●	●		音色、リズム、速度、旋律、 テクスチャ、強弱、形式、 構成	II(2) I(6) I(7)	
1 2 3	表現(歌唱)/ 3時間	様々なフランス語の曲を 歌ってみよう	フランス語の発音に注意し、シャンソンとメロディの特徴の違いを理解して歌う	●	●	●	●									音色、リズム、速度、旋律、 強弱	I(3)	
	鑑賞/4時間	登場人物たちが音楽で どのように描写されてい るか理解しよう	オペラ『カルメン』に登場するカルメン、ホセ、ミカエラ、エスカミーリョが、音楽でどのように特徴的に描写されているかを理解する									●	●	●		音色、リズム、速度、旋律、 テクスチャ、強弱、構成	II(1) I(6)	
	表現(器楽)/ 2時間	リコーダーアンサンブル を楽しもう	互いの音を聴き合い、リコーダーアンサンブルの表現を工夫する					●	●	●	●					音色、リズム、速度、旋律、 テクスチャ、強弱、構成	I(3)	
	鑑賞/4時間	オーケストラと独奏楽器 群との掛け合いや対比 を楽しもう	バロック時代の協奏曲の形式を理解し、独奏楽器の音色の変化を感じ取る									●	●	●		音色、リズム、旋律、 テクスチャ、強弱、形式、 構成	II(1) I(6)	
	鑑賞/2時間	ポピュラー音楽の魅力 を感じ取ろう	ジャズやロックを、リズムなどの特徴に気を付けながら聴く									●	●	●		音色、リズム、速度、旋律、 テクスチャ、強弱、形式、 構成	II(2), I(6) I(7), I(8)	

音楽IIの目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。
---------	--

<p><b>内容の取扱い</b></p> <p>(1) 内容のA及びBの指導に当たっては、相互の関連を図るものとする。また、生徒の特性、地域や学校の実態を考慮し、内容のAの(1)、(2)又は(3)のうち一つ以上を選択して扱うことができる。</p> <p>(2) 内容のBの指導に当たっては、我が国や郷土の伝統音楽を含む多様な音楽文化について理解を深める観点から、適切かつ十分な授業時数を配当するものとする。</p> <p>(3) 内容の取扱いに当たっては、「音楽I」の3の(2)から(8)までと同様に取り扱うものとする。</p> <p><b>(音楽I 3 内容の取扱い)</b></p> <p>(2) 生徒の特性等を考慮し、内容のAの(3)のア、イ又はウのうち一つ以上を選択して扱うことができる。</p> <p>(3) 内容のAの指導に当たっては、生徒の特性等を考慮し、視唱と視奏及び読譜と記譜の指導を含めるものとする。</p> <p>(4) 内容のAの指導に当たっては、我が国の伝統的な歌唱及び和楽器を含めて扱うようにする。また、内容のBのエとの関連を図るよう配慮するものとする。</p>	<p>(5) 内容のAの(3)の指導に当たっては、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成することを重視するとともに、作品を記録する方法を工夫させるものとする。</p> <p>(6) 内容のBの指導に当たっては、楽曲や演奏について根拠をもって批評する活動などを取り入れるようにする。</p> <p>(7) 内容のA及びBの教材については、地域や学校の実態等を考慮し、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽から幅広く扱うようにする。また、Bの教材については、アジア地域の諸民族の音楽を含めて扱うようにする。</p> <p>(8) 音や音楽と生活や社会とのかかわりを考えさせ、音環境への関心を高めるよう配慮するものとする。また、音楽に関する知的財産権などについて配慮し、著作物等を尊重する態度の形成を図るようにする。</p>
---	---

主な教材	題材の指導内容と学習活動	
	主な指導内容	主な学習活動
糸／何度でも／Imagine／からたちの花	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞に込められた思いと曲想とのかかわり</li> <li>曲の雰囲気や合った歌唱表現</li> <li>楽譜に示された作曲者の意図を生かした表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌詞に込められた思いを感じ取り、声の音色を工夫して音楽表現に結び付けながら歌う</li> <li>声の音色や強弱、旋律の特徴などを生かし、曲の雰囲気や合った音楽表現を工夫して歌う</li> <li>楽譜に示された作曲者の意図を理解し、自分なりのイメージをもって歌う</li> </ul>
うつろの心／女心の歌	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベルカントの発声法とイタリア語の発音</li> <li>曲想と歌詞が表す情景や心情の表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベルカントの発声法とイタリア語の発音に注意する</li> <li>歌詞の内容と音楽とのかかわりを考え、曲想をとらえて、ふさわしい表現を工夫する</li> </ul>
文楽『一谷嫩軍記』(組討の段)／『一谷嫩軍記』(組討の段)から	<ul style="list-style-type: none"> <li>義太夫節と文楽の歴史と、『一谷嫩軍記』のあらすじの理解</li> <li>太夫と三味線についての理解</li> <li>義太夫節における声の音色や節回しなどの特徴</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の伝統芸能の一つである文楽と義太夫節の関係を歴史を理解する</li> <li>義太夫節の表現の特徴を理解し、イメージをもって聴く</li> <li>義太夫節の声の音色や節回しなどの特徴を感じ取り、表現する</li> </ul>
One	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽器の音色と表現上の効果とのかかわり</li> <li>リズムの特徴や曲想の理解と表現の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループに分かれ、編成例を参考にそれぞれのパートに合う音色を考え、楽器を選ぶ</li> <li>柔らかく弾むスウィングのリズムを感じ取り、ミュージカルでダンサーたちが歌い踊る様子などをイメージして演奏する</li> </ul>
時代を超えて鳴り響く《怒りの日》	<ul style="list-style-type: none"> <li>グレゴリオ聖歌の《怒りの日》の旋律の理解</li> <li>多くの作曲家が《怒りの日》の旋律を用いていることの意味</li> <li>各作曲家による《怒りの日》の旋律の用い方の違いについての批評</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グレゴリオ聖歌の《怒りの日》の歌詞が表す場面を理解する</li> <li>《怒りの日》の旋律が、多くの作曲家にとって創作の源になっていることを理解して鑑賞する</li> <li>各曲を聴き比べ、喚起されたイメージなどを自分なりに言葉で表す</li> </ul>
BGMをつくらう	<ul style="list-style-type: none"> <li>BGMを付ける対象、場面、BGMのタイプの選択</li> <li>サウンド系のBGMもしくはメロディー系のBGMの創作</li> <li>創作したBGMの発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サウンド系の場合、打楽器や身の回りの物、ボディパーカッションなどを選んで創作する</li> <li>メロディー系の場合、場面の雰囲気や合いそうな音階を選んで創作する</li> <li>組み合わせ方、反復、強弱、変奏などを工夫して曲を構成し、BGMを付けた対象とともに発表する</li> </ul>
音楽史上の大事件となった『春の祭典』	<ul style="list-style-type: none"> <li>リズムとアクセントとの関係の理解</li> <li>不協和な響きの特徴の理解</li> <li>様々な要素に基づく、根拠をもった批評活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループに分かれて、ホルンのリズムと弦楽器群のリズムを打ち、アクセントによる不規則なリズムを理解する</li> <li>E♭7とEの和音が同時に鳴らされることにより、不協和な響きが生み出されていることを理解する</li> <li>初演時のパレエの振り付けや新聞批評なども参考にして、『春の祭典』について自分の意見を書く</li> </ul>
流浪の民	<ul style="list-style-type: none"> <li>合唱と独唱のコントラストを生かした表現の工夫</li> <li>歌詞の内容の理解とイメージをもった合唱</li> <li>打楽器を加えた演奏</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合唱と独唱の変化を生かして、曲調にふさわしい表現を工夫する</li> <li>歌詞の表す情景を理解して、表現したい音楽のイメージをもって合唱する</li> <li>トライアングルやタンブリンなどの打楽器のリズムを工夫して加える</li> </ul>
秋の宵	<ul style="list-style-type: none"> <li>篠笛の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわり</li> <li>鈴と太鼓の音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわり</li> <li>イメージをもった和楽器の合奏</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>篠笛の音色や奏法を生かして演奏する</li> <li>鈴と太鼓の音色や奏法を生かして演奏する</li> <li>「作曲家の言葉」や曲想から、イメージを膨らませて和楽器の合奏をする</li> </ul>
能『敦盛』／『平家物語』の音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>『平家物語』の「敦盛最期」を題材にした能の鑑賞</li> <li>平家「祇園精舎」の鑑賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の伝統芸能の一つである能の歴史的背景や表現の特徴を理解し、鑑賞する</li> <li>琵琶の弾き語りや『平家物語』を語る平家を理解し、鑑賞する</li> </ul>
Stand By Me	<ul style="list-style-type: none"> <li>ギターの音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわり</li> <li>曲種に応じた発声の特徴と表現上の効果とのかかわり</li> <li>各パートの役割や働きを理解した合奏と歌唱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メロディー、伴奏、ベースラインを分担し、役割に合わせた音色や奏法で練習する</li> <li>英語の歌詞を理解して、曲種に適した発声で歌う</li> <li>メロディー、伴奏、ベースライン、歌の各パートの役割を理解し、ふさわしい表現を工夫して合わせる</li> </ul>
「ラマ物語」を題材とした芸能	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ラマ物語」を題材とした3つの芸能の表現の特徴と、それらの共通点や相違点の理解</li> <li>声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語の情景や登場人物の心情などが、どのような声や楽器の音色で表現されているか比較しながら鑑賞する</li> <li>3つの芸能の違いなどについて、鑑賞後に批評文を書いたり、感想を述べ合ったりする</li> </ul>
愛の讃歌／夢のあとに	<ul style="list-style-type: none"> <li>フランス語の発音とその特徴</li> <li>シャンソンとメロディの雰囲気の違いの理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>“r”や鼻母音などのフランス語の特徴的な発音に注意して、フランス語らしい発音で歌う</li> <li>シャンソンとメロディのジャンルの違いを理解して、それぞれの雰囲気や合った表現を工夫する</li> </ul>
4つのアリアの特徴を聴き比べてみよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>『カルメン』のあらすじと4人の登場人物の性格の理解</li> <li>4人の性格とそれぞれが歌うアリアの音楽的特徴とのかかわり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前の題材で歌ったシャンソンやメロディと比較しながら、同じフランス語のアリアを聴き、違いを理解する</li> <li>それぞれのアリアの特徴を調べ、それらと音楽表現や性格描写との結び付きを理解して鑑賞する</li> </ul>
ロンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルトリコーダーの音色の特徴とアンサンブルによる表現上の効果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの音を聴き合い、表現を工夫して、よく響き合うリコーダーのアンサンブルをする</li> </ul>
バッハの協奏曲を聴こう／(参考：ヴァイオリン協奏曲の名曲を聴こう)	<ul style="list-style-type: none"> <li>バロック時代の協奏曲であるコンチェルト グロッソの理解</li> <li>総奏部分と独奏部分の展開や響きの対比の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前の題材で演奏したリコーダーが活躍するバロック時代の協奏曲を聴き、音色の特徴や表現上の効果について理解を深める</li> <li>協奏曲の歴史やコンチェルト グロッソの構造を理解する</li> <li>総奏部分と独奏部分の旋律の違いや調の変化などが楽曲の構造と関係していることを理解して鑑賞する</li> </ul>
ポピュラー音楽／音楽の著作権について知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジャズの特徴であるスウィングのリズムの理解</li> <li>ロックの特徴である8ビートの理解</li> <li>音楽の著作権の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジャズとロックのそれぞれの歴史とその編成やリズムの特徴を理解し、両者の違いを踏まえながら鑑賞する</li> <li>音楽の著作権について理解する</li> </ul>

# 「高校生の音楽 2」執筆者

## 【監修】

小原光一(元横浜国立大学教授)

## 【監修・執筆】

久保田慶一(国立音楽大学教授)

## 【執筆・編集】

田中多佳子(京都教育大学教授)

児玉竜一(早稲田大学教授)

鹿谷美緒子(作曲家)

長谷部匡俊(作曲家)

## 【編集協力】

相田 豊(東京大学大学院 総合文化研究科)

梶井龍太郎(東海大学芸術学科教授)

川本聡胤(フェリス学院大学准教授)

古賀まみ奈(フラ舞踏家)

薦田治子(武蔵野音楽大学教授)

清水寛二(東京芸術大学非常勤講師)

鈴木裕之(国士舘大学教授)

関根敏子(東洋大学常勤講師)

田村史子(筑紫女子学園大学文学部准教授)

菅木宏幸(ギタリスト)

西川浩平(洗足学園大学専任講師)

Pasinee Sakulsurarat(作曲家)

畑 智子(ロンドン大学 民族音楽学科)

森重行敏(洗足学園音楽大学現代邦楽研究所所長)

吉澤 実(リコーダー奏者)

第1表

高等学校用教科書需要票

見本

発 行 者	番 号	27	略 称	教芸	需 要 数	生徒用	150	冊
	教 科 書	記 号	音II	番 号		309	教員用	2
	書 名	高校生の音楽 2						
所在地								
学校名								
電 話								
( 全日制・定時制・通信制 )								

## 指導書の構成 B5判セットケース入, 予定価格(本体17,000円+消費税)

### ●研究資料編

年間指導計画例、複数の学習指導案例を掲載します。授業を多角的にサポートする充実した資料を掲載します。

### ●楽譜資料編

歌唱教材の伴奏譜、移調楽譜、簡易伴奏、鑑賞曲の資料楽譜などを掲載します。

### ●指導用・鑑賞用CD 4枚

主な歌唱教材の範唱や参考演奏、原語歌詞の朗読、器楽教材、鑑賞教材を、教科書の目次順に収録します。

西洋音楽の鑑賞全曲収録。世界の諸民族の音楽：特徴を確実に捉える音素材を収録。日本の伝統音楽：聴き所を抜粋で収録。

## 別売鑑賞参考教材ソフト 定価 各(本体18,000円+消費税)

教科書に掲載されている「日本の伝統音楽」及び「世界の諸民族の音楽」の授業の参考となる資料を販売しています。

### 高等学校音楽鑑賞DVD

#### 日本の伝統芸能編

- DVD 1枚/収録時間126分
- 雅楽、琵琶楽、能楽、文楽、歌舞伎から14演目(曲)を収録

### 高等学校音楽鑑賞DVD

#### 民族編

- DVD 1枚/収録時間146分
- 38カ国、59曲を収録
- 民族音楽研究者、江波戸 昭先生の解説付き

### 音楽鑑賞Blu-ray Disc

#### 世界の民族音楽

- Blu-ray 1枚/収録時間202分
- 49カ国、86曲を収録
- 全ての映像について、研究者によるライナーノーツ付き



株式会社 教育芸術社

- 本 社 〒171-0051 東京都豊島区長崎1-12-15 TEL. 03-3957-1175(代)
- 中部支社 〒460-0024 名古屋市中区正木4-8-7 れんが橋ビル8F TEL. 052-678-3151(代)
- 関西支社 〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央1-14-17-601 TEL. 06-6943-7245(代)
- 西部支社 〒751-0808 下関市一の宮本町2-7-14 TEL. 083-256-4747(代)